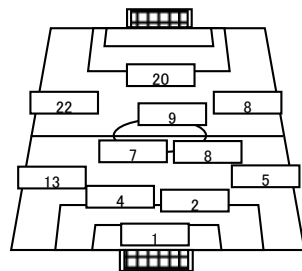


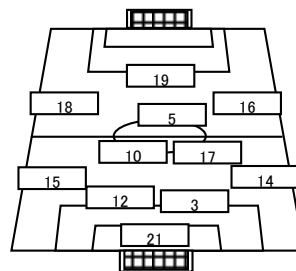
CHIGASAKI T.C U12TRM 報告書

●日時	2012年 7月 14日 (土) 天候: 晴れ 報告者 茅ヶ崎TC U-12 浅井
●会場	マリノス追浜グラウンド
●参加チーム	横須賀A、横須賀B、大和、小田原、三浦、鎌倉、横浜、茅ヶ崎
●参加人数	茅ヶ崎TC U-12 22名
●目的	さわやか杯への調整
●試合結果	第1試合 vs横須賀B 0-1 (下位トーナメントへ) 第2試合 vs鎌倉 2-0 第3試合 vs大和 1-1 (PK4-2)

前半



後半



導入: 1週間後に控えたさわやか杯にむけた調整だが結果を求める。

第1試合: VS横須賀B

大会を終えてみればこの初戦で結果を残すことができなかったのが最大のポイントとなった。
一週間前に行ったTMの動きを再度確認し、その中で修正をはかるともりていたが思惑は外れることとなった。
選手間でどういうサッカーをするのかという共通理解にかけていたため全体の動きが鈍くりアクションサッカーとなってしまった。
ウォーミングアップを通しての選手への指示通達が不明確であったことを反省しなければならない。
ゲーム内では単純なパスミス、ファーストタッチのミス、それに伴う連携ミスが目立ち、試合のイニシアティブを自ら放棄してしまった。
また起こったミスに対しピッチ内で修正ができずチームとしてのまとまりがかけられていることも表面化した。
単発ではあるが相手ゴールを脅かす機会も2度ほどあり、ゴールがあれば結果は異なるものとなっていただけに悔やまれる敗戦となった。

第2試合: VS鎌倉

茅ヶ崎が目指すサッカーを再確認、DFラインの上げ下げや動きの量を増やすことなど基本的なことを指示して臨んだ。
奪ったボールを先の試合よりも大切にすることで比較的試合を支配できた。
ひとまず結果も伴ったが目指すサッカーには程遠く満足のできる内容ではなかった。
前半、それぞれ1点づつとれたことで選手にも自信と余裕が戻ってきたように思えた。

第3試合: VS大和

前半は早い時間に1点を先取り優位に試合を進める。ボールの支配率も高く相手陣地で20分間サッカーをすることができた。
ただ内容、シュートの本数に対し1点しかとれなかったことがこの試合を苦しいものとした。
前線からのプレス、それにあわせた予測を含めたカバーがはまると高い位置でボールが奪え優位に試合を進めることができる。さわやか杯では一つの武器としたい。
また左サイドからの崩しは3試合を通してても有効に機能していた。このストロングポイントをさらにいかにするための戦術を模索することが必要。
後半も相手陣地でプレーをするがカウンターから脅かされるシーンが連続する。GKのファインセーブがなければ大量失点での敗戦になっていたかもしれないことをコーチ陣は戒めなければならない。
ゴール前での怖さを感じないのは「蹴る」という能力の欠如と中央突破に迫力がないことが原因のように思える。
大和はさわやか杯での予選でもあたるため事前に情報を得ることができたのは好材料。しっかりと対策をたて勝利につなげたい。

総括: 初戦の入り方についてはコーチ陣を含め強く意識する必要がある。明日予定されているTMで同じ轍を踏まぬよう取り組みさわやか杯につなげたい。

まだまだ1つのチームとして完成はしておらず、前半と後半のメンバーで半ば他人ごとのような場面もみられることは改善すべき第1のポイントと考える。

選手間で本音の会話を促しお互いの考えていることを理解することからはじめたい。

選抜という今のチームの立場、状況を改めて選手に伝え考え行動してもらえよう促したい。

下位トーナメントであるが勝ちぬけたことは一つの好材料である、また選手たちが満足感をあらわしてないことから残された期間を大切につかひさらなる自信と意欲をもってさわやか杯に取り組めるよう指導していきたい。